もりや仙一郎県政報告

Vol.122

国道48号、農業の未来へ言及

9月定例会　インフラ整備・果樹振興策など6項目を質問

山形県議会9月定例会の10月2日、質問の機会をいただき、インフラ、農業の項目で、山形の未来に目を向けた内容で発言いたしました。今号では抜粋して紹介いたします。

質問項目

- ○国道48号の整備促進について
- ○やまがたフルーツ150周年の取組みについて
- ○今年のサクランボの減収に対する分析と今後の対応策について
- ○今後も予想される高温、少雨に対応した果樹振興策について
- ○これからの果樹振興策について
- ○これからの飼料用米、子実用とうもろこしの作付け方針について

古川康国土交通副大臣に要望書を手渡す、天童・東根・仙台の3市長

国道48号の整備促進について

森谷　国道48号線はたびたび大雨や大雪で通行止めになり、回避するために県境部の改良、バイパス工事を長年要望してきた経緯がある。今年も10月29日には天童市、東根市が続けてきた「国道48号道路整備促進大会」があるが、同48号線に対しての進捗は。

県土整備部長　県としても県境部の強靭化対策が必要であると認識している。手法としては、トンネルと橋梁を組み合わせて別線を整備する「バイパス案」と、現道における危険箇所の防災対策を行う「現道対策案」が考えられる。

また、この区間は本県と宮城県とにまたがっていることから、宮城県及び仙台市との連携は欠かせない。これまで以上に、仙台市をはじめとする両県の関係自治体と連携を強め、様々な機会を捉えて、国道48号の強靭化に向けた調査検討の早期着手を、政府に働きかけていく。

やまがたフルーツ150周年の取り組みについて

森谷　「やまがたフルーツ150周年」事業は県民に対して何を訴えているのか。農業者に対して、今年が特別な年になっているか。私は行政においてだけの150周年では、意味がないと考える。同事業がどのように寄与しているのか。

農林水産部長　150周年の事業は、実直に果物作りに打ち込んできた先人達の挑戦の歴史を振り返り、その想いを未来に受け継いでいくことを目的に取り組んできた。

6月の記念式典では、果樹関係者など200名が一堂に会し、本県のフルーツを未来につなげていく誓いを宣言し、一丸となって本県果樹産業を盛り上げる機運醸成を図った。一方で8月の「やまがたフルーツEXPO」では、約2万人が来場し、果樹関係者の生産意欲の向上や新たなチャレンジ精神の醸成に加え、子ども達のフルーツへの理解と関心の醸成、産業連携によるビジネス創出に資するよう取り組んだ。

一方、果樹の生産現場では、スマート農業技術の導入が遅れており、生産の効率化・省力化が喫緊の課題だ。

今後は、効率化・省力化が期待できる機械の普及拡大や導入促進を図るとともに、県内製造業と連携して現場のニーズに応える製品を開発するため、果樹分野における農工連携の取り組みを強化したい。

やまがたフルーツ150周年を、時代を拓く新たな果樹振興のスタートとし、多様な産業との連携を深化させ、生産者が夢と誇りを持てるゆるぎない「フルーツ王国」を目指したい。

飼料用米の作付け方針について

森谷　主食用米が、昨年から価格が上昇している。特に今年の全農山形の概算金は、昨年より1万1500円の大幅な引き上げとなった。これはコメ農家の経営意欲につながるものと期待している。一方で、飼料用米の作付けが減少しており、畜産業者に向けた代替飼料は。

農林水産部長　昨年からの主食用米価格の上昇に伴い、主食用米の収益性が大きく高まり、収益性の低い飼料用米から主食用米への転換が進んだ。

今後、米価が変動しても飼料用米を安定して確保するためには、これまで稲作農家が主体だった生産体制を見直し、飼料生産組織や畜産経営体自らが生産していくことも選択肢として考えられることから、必要となる機械の整備や、低コスト・多収栽培に向けた技術指導などの支援を検討していく。

農業機械支援事業について

農林水産部長言及

「複数年にわたり補助事業で支援」

森谷　今年のサクランボは、かつてない減収となった。収穫量は県の発表で8500㌧程度とされ、１万㌧を割るようであれば、生産農家のみならず、ギフト、ふるさと納税などに大きな影響がある。そしてこれだけ不作が続くと、山形のサクランボは「あてにならない」と言われてしまう。県は受粉対策が急務とし、ミツバチ導入を1.5倍にすると打ち出したが、実現可能か。また高温など気候変動が厳しい中、今後のサクランボの振興をどのようにしていくか。

農林水産部長　サクランボの減収は、開花期の強風や降雨、低温の影響で訪花昆虫の活動が鈍く、結実が悪かったことが大きな要因と捉えている。マメコバチの減少を補うには、リースや買取りにより今年の1.5倍とする目標を掲げた。これに要する費用への新たな支援について、市町や生産者団体、産地市場と連携して実施することで、合意が得られている。

今年のサクランボの収穫量は、２年連続で平年を大きく下回る不作となった。10年後の令和17年においても、安定して収穫量１万㌧以上を維持することを目標とし、その方策として、①結実確保対策、②気候変動対策、③品種転換、④担い手の確保、⑤新たな需要の創出の５つの取り組みを進めていく。

中長期的には、生産が不安定な「佐藤錦」から、比較的高温に強い「紅秀峰」や「やまがた紅王」へ改植を進め、10年後には「佐藤錦」以外の品種割合が、現在の32%から50%になるよう目指す。

こうした対策に必要な設備・資材の導入については、一気に進められない面があるため、複数年にわたり計画的に補助事業で支援していくことが大切であると考えている。経営規模に合わせた適切な高温対策が講じられるよう、設備などの導入支援や経営面・技術面での現場指導を強化し、持続可能なサクランボ産地の形成に向けて全力で取り組んでいく。

山形県議会議員 もりや仙一郎

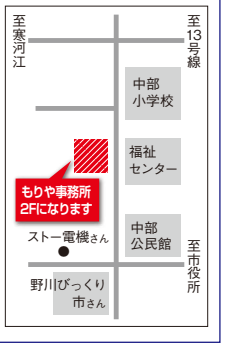
ご意見を募集しております。FAX・メール・ブログで頂けると幸いです。
こうして欲しい！ ココが問題！ 改善して欲しい…など

☎023-651-5539 FAX023-651-5549

〒994-0013 天童市老野森３丁目4-17

もりや仙一郎 検索

過去の県政報告はHPでご覧いただけます。 https://www.10016.jp/

facebook 友達登録をお願い致します。

公式ホームページ